

絵本の製作と読み聞かせを通してモンの子どもと結ぶ 家庭科授業の研究

柴 静子 日浦美智代 一ノ瀬孝恵 高橋美与子
佐藤 敦子 三根 和浪

はじめに

平成21年度の学部・附属学校共同研究においては、高等学校家庭科の新学習指導要領が提唱する共生社会の実現の視点から、針と糸の民と呼ばれるモン族の衣生活の学習をとおして、途上国支援の意識を高めるとともに、途上国から得る大きな学びもあることを理解させる授業を構築し、成果をあげた¹⁾。本研究は、これを踏まえて、再び国際理解教育の視点から、ぬりえ絵本製作をとおしてモン族の子どもたちと心をつなぐことを可能とする「家庭基礎」の保育学習をつくることを目的としたものである。

平成22年度、広島と福山の両附属高等学校の生徒を対象として、次の①～④のような家庭科の授業を実施して、学習効果を測った。①「針と糸の民」といわれるモン族の生活について、映像の視聴や刺繍が特徴である民族衣裳の実物に触れることを通して理解させるとともに、モン族の子ども文化の形成を支援することの重要性や、このような支援のためには、絵本が重要な役割を担っていることを了解させた。②広島と福山の2つの附属学校の高校1年生の各2クラスにおいて、モン族の子どもに読み聞かせをすることを前提にした「ぬりえ絵本」を製作させた。ぬりえ絵本の効用は、製作時間を短縮してもバラエティに富んだお話をつくることのできる場所にある。③出来上がった絵本をモン族の支援団体であるシャンティ山口に委託し、タイのホイプム村において保育園児を対象として読み聞かせを実施してもらい、その際の反応を写真や映像等を通して知らせてもらった。④授業の事前と事後において実施されたアンケート調査等を集計・分析した。

以上の①～④を実施したことにより、両方の附属高校において、研究目的に到達する学習効果が見られた。

1. 附属高等学校での授業実践

「絵本の製作と読み聞かせを通してモンの子どもと結ぶ家庭科の授業」は、2010年11月18日(木)～12月2日(木)のうち5時間、広島大学附属高等学校1年生2クラスにおいて実践した。授業担当は2組が一ノ瀬孝恵教諭、5組が日浦美智代教諭であり、同様の指導過程をとった。

本授業の目標としては、以下の3つを設定した。

- (1) 子どもの文化を形成するには絵本が重要な役割を担っていることを知る。
 - (2) モン族の子どもたちのための「ぬりえ絵本」を製作する。
 - (3) 国際理解教育の視点からモン族の子どもたちと自作絵本を通して心結び合うことを知る。
- また、5時間の指導計画は次のとおりであった。

(指導計画)

- 第1次 生活文化を見つめる……………2時間
第2次 ぬりえ絵本の製作……………3時間

授業は、①NHK番組「アジア染織紀行・針と糸の民～ラオス・モン族の刺しゅう」のビデオ視聴、②モン族の生活文化の背景と生活文化、③日本での絵本文化、④発展途上国の子どもたちの生活、⑤発展途上国での絵本の役割、⑥ぬりえ絵本の製作という一連のプロセスで展開した。世界には我々と全く異なる状況のもとで生活している子どもたちがいること、その子どもたちも我々と同じように学習することを望んでいることを理解するために、NHKビデオやWebは効果的であった。

次ページの表1は、全5時間の学習過程を示したものである。

2. 附属福山高等学校での授業実践

附属福山高等学校における「絵本の製作と読み聞かせを通してモンの子どもと結ぶ家庭科の授業」は、1年A組については2010年8月26日（木）～11月11日（木）のうち15時間、E組については8月27日（金）～1月14日（金）のうち14時間をかけて実践された。授業者は高橋美与子教諭であった。

A組の指導計画は、①絵本の重要性と「ことばによる応答理論」の説明（1時間）、②モン族の衣生活とその背景をビデオ「アジア染織紀行」の視聴や衣装等の実物を通して知る（2時間）、③モン族のような発展途上の状況にある子どもたちにとって、絵本がどのような意義をもつか考える（1時間）、④モンの子どもたちと「ももやま保育園」の子どもたちに読み聞かせをするためのぬりえ絵本をグループで製作する（7時間）、⑤ももやま保育園訪問の説明とぬりえ絵本の読み聞かせの練習（2時間）、⑥ももやま保育園を訪

問して、製作した絵本を読み聞かせる（2時間）というものであった。E組も③を除いてA組と同様に学習が進んだ。

この高校の実践の特徴は、生徒に「ことばによる応答理論」を学習させていること、ぬりえ絵本の製作のために十分な時間を割り当てていること、並びに製作した絵本を実際に近所の保育園で読み聞かせをさせるということである。この点が先述の附属高校とは異なっており、生徒の絵本製作への動機づけや作品の内容に影響していると考えられる。

なお、両附属ともぬりえ絵本の製作に当たっては、数冊のアメリカのぬりえ絵本を提示して、その絵を使用して新たな物語を創作するという方法を生徒に指示した。この高校のA組10グループの場合は、既製のぬりえを原本にするよりは、オリジナルな絵と文を自分たちで考えたいと主張するグループが6グループ出てきたので、そのようにすることを認めた。

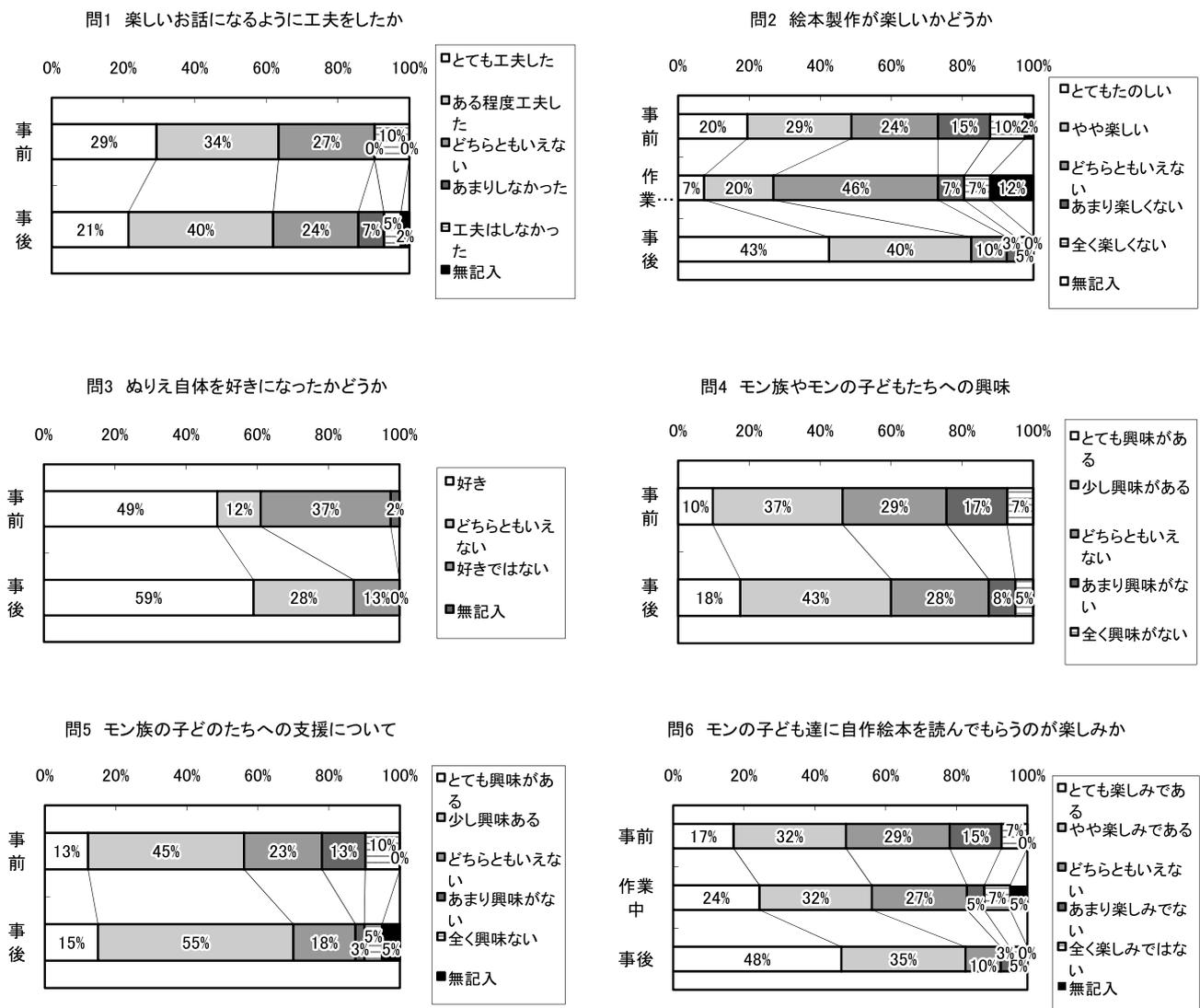


図1 絵本製作学習に関するアンケート調査の結果（附属高等学校）

3. アンケート調査に見る絵本製作学習の効果

図1と図2は、ぬりえ絵本製作学習の事前・事後におけるアンケート調査の結果を示したものである。図1は、附属高等学校1年5組のデータであり、図2は、附属福山高等学校1年A組のデータである。

図1を見ると、附属高等学校においては、問1「楽しいお話になるように工夫をしたか」を除いて、事前よりも事後が良好な反応を示している。

特に問6「モン族の子どもたちに自作絵本を読んでもらうのが楽しみか」という質問に対して、肯定的に答えた生徒が事後には83%に至ったことは、モン族の子どもたちと絵本を通して心の交流をすることへの関心の高さを示したものである。ビデオ「アジア染色紀行」の視聴によりモン族の子どもたちの生活を感じ取ることができたこと、並びにWebページより、モン族支援を行なっている安井清子氏の活動を理解したことが良好な反応を示す要因になったと考えられる。

問3「ぬりえ自体を好きになったかどうか」の前後

比較では、事前では49%にとどまっていたが、事後では59%の生徒が好きになったと答えている。また、問4「モン族やモンの子どもたちへの興味」並びに問5「モン族の子どもたちへの支援」についても、事後に関心が高まっている。このことは、製作した絵本をモン族の子どもたちに読み聞かせをしてもらう、という計画が伝えられたことが要因になったと考えられる。

しかし、問2「絵本製作が楽しい」では事後83%の生徒が「とても楽しい」「やや楽しい」と答えているにもかかわらず、問1「製作した絵本が楽しいお話になるように工夫した」について「とても工夫した」ある程度工夫した」と答えた生徒が61%にとどまった。

モン族の子どもたちへの興味関心が高まり、絵本製作を楽しんで製作したものの絵本のストーリーの工夫ができなかったことは残念な結果であった。このことは、読み聞かせを計画しているモン族の子どもたちの対象年齢を教師側が示していなかったこと、保育領域の学習内容がこの時期に履修できていないことが要因になったと考えられる。

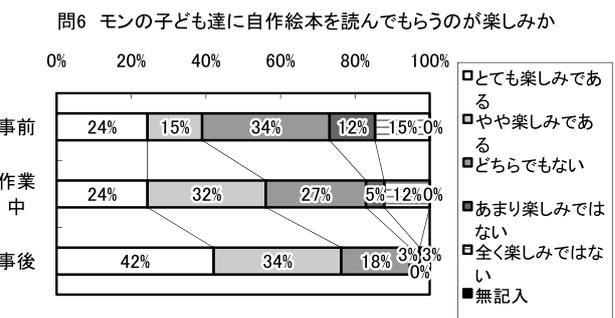
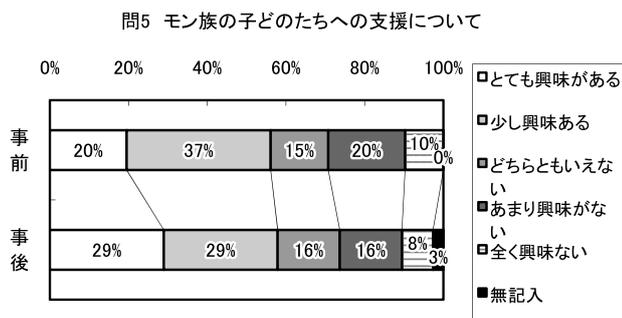
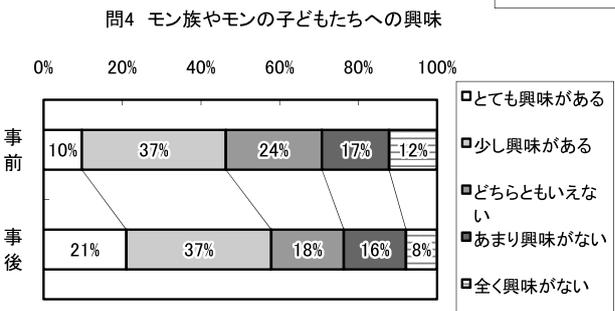
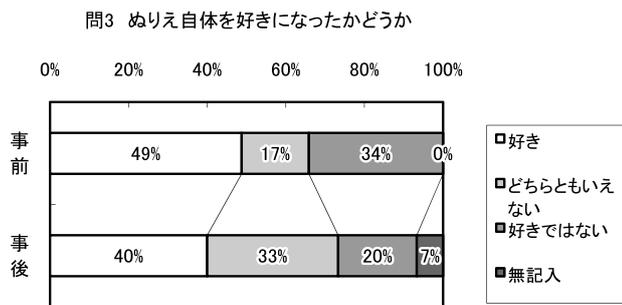
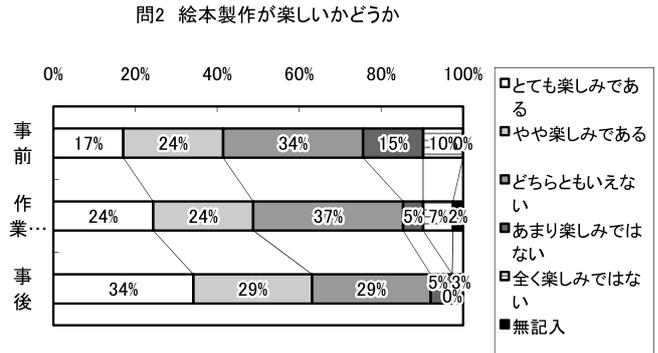
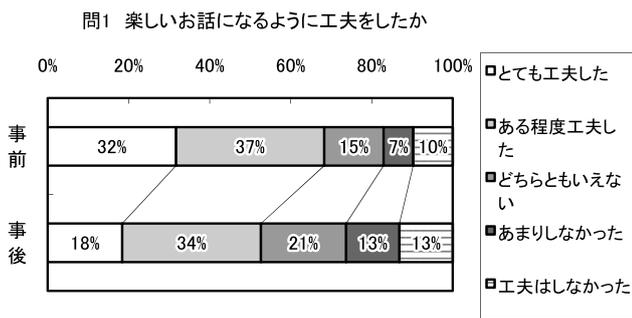


図2 絵本製作学習に関するアンケート調査の結果（附属福山高等学校）

表2 生徒が製作した絵本のタイトル・物語など

タイトル	使用したぬりえ	物語	装飾や工夫
1	タマとゆかいななかたまち	Favorite Pets ねこ、かめ、いぬ、ねずみ、インコ、うま、やぎ、にわとり、かわうそ、へび、かえるなどの動物と、人との生活が描かれています。文章なし。	特になし。
2	ももたろう	オリジナル 桃から生まれた桃太郎が、さる、きじ、いぬをお供につれて、鬼退治に向かうお話。	特になし。
3	うみにいこう	At the Beach 家族が海へ行き、砂遊びや貝ほり、波に乗って遊ぶ様子が描かれています。文章なし。	海と砂浜はすべて貼り絵。モン族のスカートの布で装飾。
4	つるのおんがえし	オリジナル けがをした鶴が人の姿になり、助けられた人に恩返しをするというお話。	特になし。
5	ぼく、わるいでしょ。	オリジナル バイキンマンのような姿をした「ぼく」。「ぼく」は、悪いことが大好き。まいにち悪いことをする…。つばをちらしながらしゃべったり、靴を片方隠したり、服で鼻をチーン。ね、「ぼく」悪いでしょ。	モン族のスカートの布で装飾。
6	だいぼうけん	Christmas Family Fun Favorite Pets ひろしくんに冒険のお話を聞いた犬のカイクンは、自分も冒険してみたくまりました。てくてくとことこ、森を抜け、たくさん新しい発見をしたカイクンでしたが、家族が恋しくなって走っておうちに帰っていきます。やっぱりおうちが一番でした。	裏表紙をモン族のスカートの布で装飾。
7	ぼくといぬのあそび。	オリジナル あるところに、一匹の犬がいました。なまえはマロン。もこもこのふわふわです。マロンはトムが投げたものを拾いに行く遊びが大好き。うまくキャッチできたので、たくさん頭をなでもらいました。	首輪をモン族のスカートの布で装飾。犬が飛び上がったものをキャッチする仕掛け。
8	日本へいこう	My Plane Trip みんなでお出かけしよう！どこへ行く？アメリカ？カナダ？オーストラリア？…日本に決定！飛行機にのって、日本到着！奈良の大仏は大きいな！金閣寺はキラキラしているね！日本は楽しいな！	特になし。
9	がっこうへいこう	オリジナル 学校での一日。算数や音楽や体育。休み時間や給食の時間もあります。動物たちは、楽しそうに学校生活をおくっています。文章なし。	裏表紙をモン族のスカートの布で装飾。紙をめくると給食をきれいに食べ終わっている仕掛け。
10	あーちゃんのゆめ	オリジナル ベットの中であーちゃんは楽しい夢をみます。家族で海に行って、ボール遊びや砂遊び。目が覚めたらママに海に行きたいってお願いしよう！	文字や物をざらざらとした砂のようなものを貼り付けて表現。ベットカバーにモン族のスカートの布を使用。

表3 ホイプム村保育所での絵本の読み聞かせの結果

タイトル	幼児の反応・関心度	内容の理解	なじみ度	絵本の工夫による興味度	
1	タマとゆかいななかたまち	モンとの生活の一部である動物との共生であることから、関心度も高く自分のうちの家族が絵本に書かれているよう感じながら見ていた。	とてもよく理解できる。	十分満足。	身近な動物でとてもよい。表紙の絵の工夫がすばらしい。
2	ももたろう	素朴なキャラクターに共有感があり身近な絵本としてとらえている。	理解できない。	同様のモンの民話はあるが、幼児にはなじまない。	キャラクターは素朴でよいが、仕掛けなどの工夫があればなおよい。
3	うみにいこう	絵本の貼り絵にとっても興味を示した。海は、見たことがない、あることも知らない、海の動物も知らないで、興味を引いた。	よく理解できる。	海は見たことが無く、ほとんどの親達も知らないで実感がわかない。	全体に貼り絵があり、とてもよい。もう少し派手に強調されていればなおよい。
4	つるのおんがえし	あまりよくわからない。	理解できない。	ストーリーに対して、先生がとても興味を示していた。	ストーリーがわかるよう絵の順番が工夫されており、内容が理解しやすい。
5	ぼく、わるいでしょ。	キャラクターに人気集中し、みんな大喜び。幼児にとっては身近な出来事である。	よく理解できる。	モンの暮らしの中では、いずれも悪いこととは捉えていない。親がしかったり、注意することもない。	発想がすばらしい。この類の絵本は、必要性と重要性が高いと思う。幼児教育に欠かせないしつけ絵本であると思う。
6	だいぼうけん	動物が出てくるところは、うけている。	理解できない。	季節・生活様式の違いから、なじまない。	裏表紙にモンの刺繍の家があるため親近感がわき、とてもよい。
7	ぼくといぬのあそび。	犬の種類が違うのをとても興味深く見ていた。キャッチの飛び出しに喜んでいった。	よく理解できる。	キャラクターが普通の犬（雑種）だともっと親近感がわく可能性がある。	山場での飛び出しの工夫があるのが大変よい。ストーリーが単純でよく理解できる。
8	日本へいこう	飛行機には興味を示した。飛行機の中は、よくわからない。	理解できない。	身近なことではないのでなじまない。日本の生活の紹介がもっと多いとよい。	最後にある刺繍のコメントポケットがよい。
9	がっこうへいこう	キャラクターはよかったが、日本には動物の学校があるのか疑問を持った。	理解できる。	動物の学校はほほえましいが、なじまない。まだ学校に行くことが出来ない子ども達はたくさんいる。	料理の工夫がよい。裏表紙の刺繍ポケットがよい。
10	あーちゃんのゆめ	海は見たことも聞いたこともない。絵本の夢でも実感できないが、何となく大きな川と思ったかもしれない。	理解できない。	ビデオを見せると少しわかるかもしれない。説明者も見ることがない。	立体感や触った感じ、モンの刺繍がとてもよい。

(シャンティ山口の佐伯昭夫氏のレポートから)

次に、図2に示された附属福山高等学校のデータについて検討する。

このクラスにおいては、問1「楽しいお話になるように工夫をしたか」と問3「ぬりえ自体を好きになったかどうか」については、事前よりも事後において肯定的な反応が少なくなるという逆転が起こった。また問5「モン族の子どもたちへの支援」については、事前と事後で肯定的な割合がほとんど変化していないという結果になった。ただし、問2「絵本製作が楽しいかどうか」では、事前には41%が肯定的に考えていたが、事後には63%の生徒が「とても楽しい」、「やや楽しい」と答えており、学習効果の上昇が見られた。

問6「モン族の子どもたちに自作絵本を読んでもらうのが楽しみか」という質問に対しては、肯定的に答えた生徒が事後に76%に至った。附属高校と同様に、モン族の子どもたちと絵本を通して交流することへの関心の高さを示したものと考えられる。

アンケート結果から見ると、福山高等学校のぬりえ絵本製作学習は、顕著な学習成果を示したとはいえないようである。しかし、表2に示した製作された絵本は、実際にタイのモン族の子どもたちに読み聞かせた際には、表3のような良好な評価を得ているのである。

4. 製作された絵本とタイ国ホイプム村保育園での読み聞かせ

表2は、福山高校の生徒が製作した絵本のリストである。全部で10冊が製作され、そのうちの4冊はアメリカのぬりえ絵本を原本にしたものであり、6冊は生徒たちのオリジナル絵本である。日本の民話や学校生活を紹介する内容のもの、どこの国の子どもでも興味をもつであろう動物とのふれあいや遊びをテーマにしたものなど、生徒たちはモン族の子どもたちにも理解できるようにと内容を考えて製作した。また、貼り絵や砂絵を利用するなど、より子どもたちに楽しんでもらえるように工夫をした。それぞれの本には生徒たちが興味をそそられたモン族のスカートの布を利用してポケットをつけ、そこに子どもたちへのメッセージカードを入れて思いを伝えた。

表3は、この10冊の絵本を、モン族支援団体である「シャンティ山口」の事務局長佐伯昭夫氏に委託して、

タイ国ホイプム村（Barn Hoipum）の保育所で読み聞かせをしてもらった際のレポートである。絵本の読み聞かせの実施日は2010年12月24日であり、現地の保育士で、日本語がわかる女性が、11歳児から5歳児、計19人のモン族の子どもに対して行った。

これを観察していた佐伯氏のレポートには、子どもたちの興味を引くテーマは、自分たちの経験と重なった、理解可能なものであること、またキャラクターとしては、山岳地帯に住むモン族の人々となじみが深い動物が受け入れられやすいことが示されている。また、絵本の中に飛び出す部分をつけたり、モン族の刺繍布や紙を貼ることが喜ばれることが示唆されている。

佐伯氏は読み聞かせの風景をムービーカメラで撮影して提供してくださったが、そこには日本人と同じ顔立ちをした、元気のよい、可愛い子どもたちが絵本の読み聞かせを楽しみ、ある時は声を上げて喜んだり、立ち上がって絵本に近づいて来ている姿が映し出されている。今後、高校生にこの映像を見せて、自作絵本のもつ様々な可能性について考えさせたいと思う。

おわりに

「家庭基礎」は2単位であるが、少ない時間を工面して自作絵本を製作させ、保育園などで読み聞かせを行っている事例は数多い。しかし国際理解教育の観点から、発展途上国の子どもたちと自作絵本を媒介として交流を図り、地球市民としての考え方や援助の方向性を見いだすことを視野に入れた教育実践は皆無に近い。この度の学部・附属学校共同研究はその先鞭をつけたものであり、成果を上げたといえる。

なおこの実践が可能になったのも、モン族支援に真摯に取り組んでおられる佐伯昭夫氏の格別の協力を戴いたからであり、厚くお礼を申し上げます。

引用文献

- 1) 柴 静子, 日浦美智代, 一ノ瀬孝恵, 高橋美与子, 佐藤敦子, 木下瑞穂, 高田 宏「針と糸の民『モン族』の暮らしと織物の教材化に関する研究」, 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要 第38号, 2010, pp.155-160